



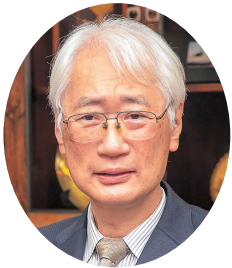
フォーラム富山「創薬」 News

目次

フォーラム富山「創薬」の現在地点と今後について	— 1
第61回研究会(令和7年5月14日開催)	— 2
第62回研究会(令和7年10月31日開催)	— 4
【特集】Focus! 富山大学・富山県立大学	— 6

富山医薬品化学研究会(トメックス)活動報告、 令和7年度会議記録	— 8
役員一覧	— 9
会員、幹事会委員	— 10

フォーラム富山「創薬」の 現在地点と今後について



会長 齋藤 滋
(富山大学長)

第61回研究会は、中川 嘉先生をコーディネーターとしてお招きしました。オルガネラは、細胞内で特定の機能を担う構造物であり、細胞の生命活動を支える重要な要素です。オルガネラの異常は細胞機能全体に影響を及ぼし、結果として疾患や病的状態の発症につながる人が多いことから、病気の原因究明や治療法の開発にも大きく貢献しています。今回は、このオルガネラ研究の中でも、特に小胞体に関連する分野で世界的に高く評価されている京都大学森和俊特別教授や筑波大学島野仁客員教授、金沢大学齋藤敦教授から、創薬研究に関する視座を養いました。参加者向けに実施したアンケートにおいては、印象に残ったことについて、「今後の創薬はますます複雑化し、成功確率は低下することが予想される。この問題にどのように立ち向かうかが、今後の課題と感じた。」「普段は聞けない教授から、タンパク質や脂肪に関連する研究内容を聞いた。まだまだ知られていない効能(組み合わせ)があると感じさせられた。富山で作る薬には興味があり、可能性を感じた。」「講演者から研究に対する熱意が伝わってきました。将来の研究者にとっても役に立ったと思います。」など、様々な感想が寄せられました。

第62回研究会は、土谷 智史先生をコーディネーターとしてお招きしました。大学の研究は、大部分が研究を行ったのみで終わってしまい、私たちの生活を変えるところまでは到達できていません。また、ベンチャー企業の設立は、研究のアイデアや成果を世の中に還元するための、いわゆる“出口戦略”として、現在我が国が積極的に推し進めていますが、「私たちの身近にはその例が少なく、どのような研究が、どのような過程を経て世の中に出て行くのかが思い描けない」という土谷先生の思いから、『創薬と大学発ベンチャー』というテーマが題されました。今回のテーマを通し、富山における創薬研究やその他の基礎研究をどのように進めて行けば良いのか、その指標、そしてさらなる発展の契機について、それぞれの立場や視点において考え、意見を交わしました。参加者向けに実施したアンケートにおいては、印象に残ったことについて、「ベンチャー企業の立ち上げには、単に優れたアイデアだけでなく、それを実現するための人的ネットワークや協力体制の構築が不可欠であることがわかった。実際に起業を進めるには、資金調達、専門知識、法的支援、事業化の経験など、多様な分野の専門家との連携が必要であり、ネットワークの重要性を強く実感した。」「レベルの高い研究から社会実装されている流れについて色々な講演があり、大変勉強になりました。素晴らしい企画、内容だと思います。」「研究を社会実装する難しさ」など、こちらも様々な感想をいただきました。

フォーラム富山「創薬」は、2025年2月で設立から25年を迎えました。設立以来、理念としてきた、「発想の刺激」「情報交換」の場を引き続き目指すことはもちろんですが、地域の健康課題に対する実践的な知の創出と社会実装に向けた、さらなる気運の醸成を目指します。

第61回研究会

- 日 時：令和7年5月14日(水) 14時00分開始
- 会 場：ポルファートとやま4階 珊瑚(さんご)の間
- 開催方式：ハイブリッド方式(会場とオンライン同時配信による開催)
- 研究会出席者数：111名(会場41名、オンライン70名)
- テ ー マ：『オルガネラ機能障害による疾患メカニズムと創薬』
- コーディネーター：中川 嘉(富山大学 学術研究部 薬学・和漢系(和漢医薬学総合研究所) 研究開発部門 複雑系解析分野 教授)

〈主賓挨拶〉齋藤 滋 会長(富山大学 学長)

〈特別講演〉

『小胞体の機能と制御のダイナミクス』

森 和俊(京都大学 高等研究院 特別教授)

(座長) 齋藤 滋 会長(富山大学 学長)

『脂質の多様性と臓器病態そして創薬～Lipid Medicineをめざして～』

島野 仁(筑波大学 医学医療系内分泌代謝・糖尿病内科 客員教授)

(座長) 戸邊 一之(富山大学 学術研究部医学系 特別研究教授)

〈講演〉

『オルガネラの機能連携が制御する生理・病態と創薬ターゲットの可能性』

齋藤 敦(金沢大学 医薬保健研究域医学系 先鋭科学融合研究分野 教授)

(座長) 中川 嘉(富山大学 学術研究部 薬学・和漢系(和漢医薬学総合研究所) 研究開発部門 複雑系解析分野 教授)

『脂質代謝制御と脂質異常症における小胞体膜結合型転写因子 CREBH の役割』

中川 嘉(富山大学 学術研究部薬学・和漢系(和漢医薬学総合研究所)

研究開発部門複雑系解析分野 教授)

(座長) 中川 嘉(富山大学 学術研究部 薬学・和漢系(和漢医薬学総合研究所)

研究開発部門 複雑系解析分野 教授)

〈富山県からのお知らせ〉

第61回研究会

コーディネーター 中川 嘉



今回は、「オルガネラ機能障害による疾患メカニズムと創薬」をテーマに開催いたしました。オルガネラは細胞の生命活動を支える重要な要素です。オルガネラは協調的に機能することで、

エネルギー生成、物質代謝、情報伝達といった生理現象を遂行します。そのため、オルガネラの異常は細胞機能全体に影響を及ぼし、疾患や

病的状態の発症につながります。細胞やオルガネラの研究は生物学の理解を深めるだけでなく、病気の原因究明や治療法の開発にも大きく寄与してきました。今回の講演でオルガネラ機能を理解し、オルガネラを標的とした創薬への理解が深まると考え、企画しました。

前半の特別講演では、第一題目として、京都大学高等研究院 特別教授の森和俊先生に、「小胞体の機能と制御のダイナミクス」をテーマにご講

演いただきました。

森先生は、小胞体ストレス応答の分子機構を世界で初めて解明した著名な研究者です。また、カナダ・ガードナー国際賞やアルバート・ラスカー基礎医学研究賞、文化功労者としての顕彰など、数多くの国際的な賞を受賞されており、これらの賞はノーベル賞の前哨戦とも称されるほど権威が高く、森先生の研究は国際的に極めて高く評価されています。本講演では、小胞体ストレス応答が、細胞内のタンパク質品質管理や恒常性維持において重要な役割を果たし、神経変性疾患や生活習慣病を含む代謝性疾患など、幅広い疾患に関連することが説明されました。また、小胞体ストレス研究の歴史における競争相手であるカリフォルニア大学サンフランシスコ校 (UCSF) のピーター・ウォルター氏との熾烈な競争についても語られ、さらに、剣道で培った「負けない気持ち」により困難を乗り越えてきた強い意志と信念についても言及されました。

また、第二題目では、筑波大学医学医療系 内分泌代謝・糖尿病内科 客員教授の島野仁先生に、「脂質の多様性と臓器病態、そして創薬～Lipid Medicine をめざして～」をテーマにご講演いただきました。生活習慣病において、脂質の「量」の調節が重要であるという従来の通説に対し、脂質の「質」の重要性を提唱され、実際にその組成を変化させることで病態が悪化・改善することを示してくださいました。さらに、脂質合成を介した臓器脂質の量および質的制御や感知が、様々なシグナル分子と脂質分子の相互作用、さらにはオルガネラ膜脂質の組成、形態、機能の変容を通じて、生命現象や疾患病態に広く関与

することを示し、新たな生命科学の基軸を提示されました。

後半の特別講演では、第一題目として、金沢大学医薬保健研究域 医学系 先鋭科学融合研究分野 教授の齋藤敦先生に、「オルガネラの機能連携が制御する生理・病態と創薬ターゲットの可能性」をテーマにご講演いただきました。講演では、小胞体膜結合型転写因子が細胞の分化や成熟、組織形成の制御において重要な役割を果たすことに加え、他のオルガネラ(核、ミトコンドリア)の機能調節を介して、オルガネラ膜構造の維持や細胞増殖、エネルギー代謝など、多岐にわたる生命活動を統括していることについて、ご説明いただきました。

第二題目として、私が「脂質代謝制御と脂質異常症における小胞体膜結合型転写因子 CREBH の役割」と題し、講演いたしました。小胞体膜結合型転写因子が脂質代謝の恒常性維持に加え、個体の成長にも寄与することについて、ご説明させていただきました。

今回の研究会を通じて、小胞体の機能が果たす重要な役割を改めて確認するとともに、その臨床応用の可能性について再認識する機会となりました。

全体として、講演後の活発な質疑応答が行なわれ、活気ある研究会になりました。ご講演いただきました先生方、座長をお務めいただきました先生方、ご参加いただきました皆様に厚く御礼申し上げます。



第62回 研究会

- 日 時：令和7年10月31日(金) 14時00分開始
- 会 場：ポルファートとやま4階 珊瑚(さんご)の間
- 開催方式：ハイブリッド方式(会場とオンライン同時配信による開催)
- 研究会出席者数：59名(会場36名、オンライン23名)
- テ ー マ：『創薬と大学発ベンチャー』
- コーディネーター/座長：土谷 智史(富山大学 学術研究部医学系(附属病院)呼吸器外科 教授)

〈主賓挨拶〉齋藤 滋 会長(富山大学 学長)

〈特別講演〉

『革新的次世代核酸医薬の創製』

和田 猛(東京理科大学 薬学部生命創薬科学科教授、
東京理科大学 総合研究院 核酸医薬研究センター長)

『iPS細胞由来肺細胞モデルの創薬応用と大学発ベンチャーを通じた社会実装』

山本 佑樹(HiLung 株式会社 代表取締役 CEO)

〈講演〉

『健康寿命延伸に資する創薬ターゲットの探索～脂肪組織の質の改善に向けて～』

樋上 賀一(東京理科大学 常務理事、薬学部生命創薬科学科 分子病理・代謝学研究室 教授)

『外部資金を活用した簡易迅速法による乳癌転移診断への挑戦』

大上 光明(株式会社ニッポンジーン 取締役、企画開発部 部長)

〈研究紹介〉

『組織骨格から臓器を創る』

土谷 智史(富山大学 学術研究部医学系(附属病院)呼吸器外科 教授)

富山大学博士課程学生支援プロジェクト「SPRING 事業」による発表

第62回研究会

コーディネーター 土谷 智史



フォーラム富山「創薬」第62回研究会は、令和7年10月31日(金)14:00から、ポルファートとやまにて開催された。今回のテーマは、「創薬と大学発ベンチャー」であった。ベンチャー企業設立は、研究の出口戦略として、現在我が国が積極的に推し進めているが、私の身近にはその例が少なく、どのような研究がどのような過程を経て世の中に出て行くのかが思い描けないことから、このテーマを

設けさせて頂いた。

実際のご講演は素晴らしいものであった。まず特別講演では、東京理科大学薬学部生命創薬科学科教授、および同核酸医薬研究センター長の和田猛先生に、「革新的次世代核酸医薬の創製」と題してご講演頂いた。核酸医薬は、化学合成されたDNAやRNA誘導体を活性の本体とする医薬であり、作用機序が明確で副作用が少ないという特徴がある一方、生体内での安定性やデリバリー技術の確立、高騰する生産コストの削減など解決すべき課題も多い。本講演では、核

酸医薬分子の新しい製造技術などについて、さらに米国でWave Life Sciencesというベンチャー企業を設立させたそのご苦労についてもご講演頂いた。

特別講演の2人目はHiLung 株式会社代表取締役の山本佑樹先生であった。「iPS 細胞由来肺細胞モデルの創薬応用と大学発ベンチャーを通じた社会実装」についてご講演頂いた。末期肺疾患の根本的な治療法を変えたいという思いから京都大学大学院に進み、在籍中にiPS細胞を用いたヒト肺胞上皮細胞の分化誘導に成功された。この技術を基盤に京都大学発スタートアップとして会社を設立したが、その経緯についてもご講演頂いた。

続いて一般講演として、東京理科大学常務理事、薬学部生命創薬科学科分子病理・代謝学研究室教授の樋上賀一先生より、「健康寿命延伸に資する創薬ターゲットの探索～脂肪組織の質の改善に向けて～」という題名でご講演頂いた。まず東京理科大学でのベンチャー企業設立への取り組みを示して頂き、その後、カロリーの制限の寿命延伸効果、最新のミトコンドリア関連遺伝子ミトコンドリアシグナルペプチダーゼの1つMIPEP (mitochondrial intermediate peptidase) 発現の亢進と寿命との関連についてご教示頂いた。

一般講演の2人目は、株式会社ニッポンジーン取締役、企画開発部部长大上光明先生より、「外

部資金を活用した簡易迅速法による乳癌転移診断への挑戦」という題名でご講演頂いた。本講演では、乳がんのリンパ節転移を手術中に迅速に診断するための世界初のイムノクロマトキットの製品化について、その開発着手までの経緯と、AMED、Go-Tech 事業 (成長型中小企業等研究開発支援事業) という2つの補助事業を活用した新規診断薬の開発、臨床開発への挑戦についてご紹介頂いた。

続いて研究紹介として、富山大学呼吸器外科土谷より「組織骨格から臓器を創る」という題名で、脱細胞化組織骨格を利用した肺の臓器再生について説明した。そして、富山大学博士課程学生支援プロジェクト「SPRING (スプリング) 事業」より採択をうけた2名の学生によるインターンシップ事例報告で締めくくられた。

本研究会を通して、バイオベンチャーについて多くの学びがあった。その設立には公的資金を獲得する道、多くの企業とコラボレーションを行いながら立ち上げる道など、幾つかの手段が示された。この研究会がきっかけとなり、富山大学にも新たなバイオベンチャーが創出されれば幸いである。最後に、本研究会でご講演いただいた先生方、ご参加いただいた皆様、開催にあたり多大なるご尽力をいただいた富山大学研究推進部研究振興課の皆様、この紙面を借りて厚く感謝を申し上げます。

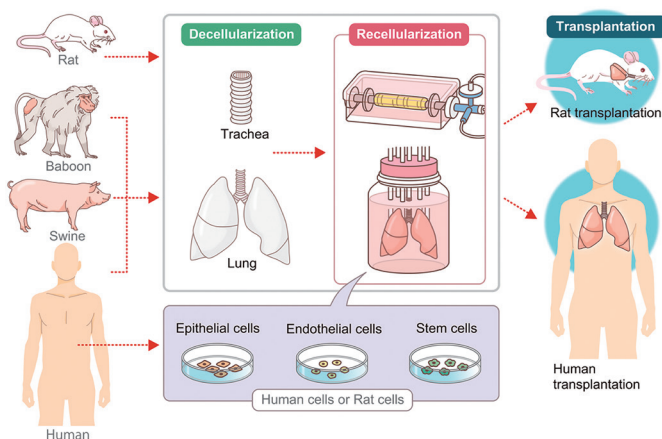


富山大学での臓器創製研究のご紹介～富山大学呼吸器外科学教室～

富山大学 学術研究部医学系(附属病院)呼吸器外科 教授
土谷 智史

臓器不足は移植医療において喫緊の課題であり、私たちは、“移植臓器の作製”が移植待機患者を救う次世代のイノベーションとなるという考えのもと、脱細胞化した臓器を再細胞化し、動物の臓器からヒト臓器を創製するという画期的な取り組みを行っております(図1)。

これまでヒト肺胞上皮細胞は培養が難しかったのですが、京都大学や理化学研究所などと協力し、iPS細胞やオルガノイドの技術を用いて克服しつつあります。現在、ラット肺に毛細血管を作製し、呼吸運動



によって肺胞上皮を分化誘導させ、機能する小型ヒト移植肺の創製を目指しています。また、この創製肺を使った疾患-治療モデルへの発展も視野に入れ、Yale大学を含めた多くの施設や他領域との共同研究を続けています。

医薬理工学環の枠組みの中で、医工学の研究者が留学生や配属の医学生と和気あいあいと研究を行っております。薬学部や理学部の大学院生も受け入れ可能ですので、是非一緒に研究しましょう！

図1 土谷ほか 2018年 日本外科学会雑誌より引用

呼吸器外科学教室 HP <https://www.hosp.u-toyama.ac.jp/thrccsrg/index.html>



富山県立大学工学部医薬品工学科 バイオ医薬品工学講座 長井研究室

富山県立大学工学部医薬品工学科
教授 長井 良憲

長井研究室(富山県立大学 医薬品工学科)は、自然免疫を基盤とした創薬研究を推進する研究室です。Toll-like receptor (TLR)を中核に、慢性炎症や代謝性疾患、自己免疫疾患の病態形成機構を分子・個体レベルで解明してきました。近年は、天然物・低分子化合物を起点とする免疫制御シーズの創出を研究



の主軸とし、TLR4活性化/阻害剤、TLR7阻害剤、インフラマソーム阻害剤など、明確な作用機序を有する創薬候補の探索・最適化・in vivo有効性評価を一貫通貫で展開しています。最新成果として大学院生の国際誌論文掲載や競争的研究費の採択が続いており、学内外・企業との共同研究も加速しています。富山発の創薬プラットフォームの一翼として、基礎免疫学と実践的創薬研究を結ぶハブとなり、地域から世界に通用する医薬品シーズの創出を目指します。

長井研究室 HP: <https://www.pu-toyama.ac.jp/PH/nagai/index.html>

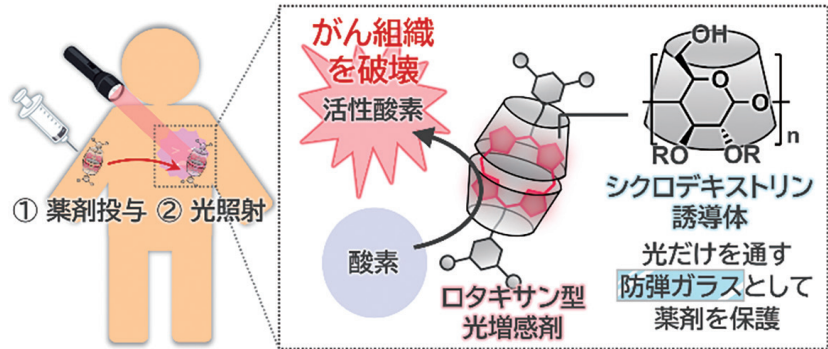


富山大学薬学部研究紹介

富山大学 学術研究部 薬学・和漢系 (薬学部) 薬化学研究室
講師 大石 雄基

薬剤と光照射を利用したがん治療法である光線力学的療法 (PDT : Photodynamic therapy) は、全身への副作用が少ない治療法として利用されている。本治療法では、光励起によって活性酸素を発生させる“光増感剤”を薬剤に用い、腫瘍部位に集積した薬剤に励起光を照射してがん細胞を選択的に死滅させる。既存薬のタラポルフィンナトリウムは早期中心性肺がんに対する有効性が確認されているものの、その適応拡大は十分に進んでおらず、新しい創薬シーズが求められている。

最近我々は、光増感剤をシクロデキストリン誘導体で封止した PDT 用薬剤「ロタキサン型光増感剤」を開発した (ACS Appl. Bio. Mater. 2024, 7, 6656. 特願2024-096721)。本薬剤において、シクロデキストリンは活性酸素種から内部の核を保護する役割を果たし、本薬剤は封止前よりも高い安定性を示す。HeLa 細胞を用いた評価により、本薬剤の光細胞障害性は既存薬よりも約 50 倍高いことが確認され、有望な創薬シーズとしての可能性が示された。



薬化学研究室 HP <http://www.pha.u-toyama.ac.jp/yakka/index-j.html>

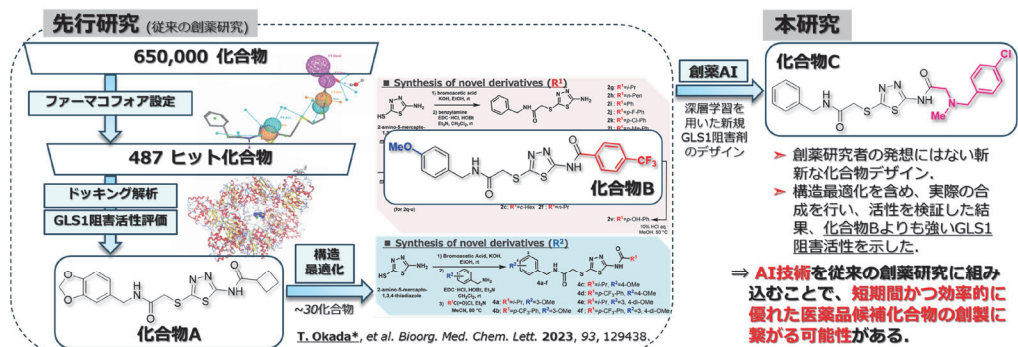


深層学習が拓く低分子創薬の革新

富山大学 学術研究部 工学系 生体機能性分子工学研究室
准教授 岡田 卓哉

近年、創薬モダリティの多様化が進む中、未だ既存薬とは異なる作用機序を持つ低分子医薬品の開発が求められている。低分子医薬品開発には、非常に長い期間と莫大なコストを要し、中でも有望なリード化合物の取得と有機合成を基盤とした構造最適化が重要とされている。当研究グループは創薬研究の一環として、抗がん活性に加え、老化細胞除去も期待される実用的なGLS1阻害剤の開発に取り組んできた。従来の創薬手法、すなわちin silicoスクリーニングにより、リード化合物を選抜し、既存の阻害剤 DON より強い活性を示す化合物 A、さらに構造最適化により高活性な化合物 B を得ることに成功したが、活性向上には限界があった。そこで深層学習を導入した結果、短時間でより優れた活性を示す化合物 C の創出に成功した。

本成果は、経験則に依存した試行錯誤型の創薬からの脱却を示し、医薬品開発の期間短縮とコスト削減に貢献し得る新たなアプローチである。



生体機能性分子工学研究室 HP <http://enghp.eng.u-toyama.ac.jp/labs/lb08/>



令和7年度富山医薬品化学研究会(トメックス)活動報告

❖令和7年度トメックス総会

■日時：令和7年7月18日(金) 15:30～16:00
■場所：富山市民プラザ3階 マルチスタジオ
司会進行：山田 強(庶務、富山大学 学術研究部薬学・和漢系 准教授)

- 1) 開会の挨拶
松谷 裕二(会長、富山大学 学術研究部薬学・和漢系 教授、薬学部長)
- 2) 議案審議
 - ①役員改選について
 - ②令和6年度活動報告について
・第22回研究会
 - ③令和7年度活動(案)について
・第23回研究会(7月18日)
 - ④その他
・日本薬学会北陸支部 第137回例会のご案内(11月15日、於：富山大学)
- 3) 閉会の挨拶
庄司 宗生(副会長、富士フィルム富山化学株式会社)

❖令和7年度トメックス第23回研究会

■日時：令和7年7月18日(金) 16:00～17:30
■場所：富山市民プラザ3階 マルチスタジオ
演題：「フェノールの脱芳香族化反応を基盤とした高度官能基化天然物の合成研究」
講師：的羽 泰世 先生(富山県立大学 工学部生物工学科 生物有機化学講座 助教)
演題：「有機電解反応を基盤とする短寿命活性種の発生・設計・合成」
講師：岡本 一央 先生(富山大学 学術研究部理学系 助教)

❖執行部(令和7年7月18日現在)

会長：松谷 裕二(富山大学 学術研究部薬学・和漢系 教授、薬学部長)
副会長：庄司 宗生(富士フィルム富山化学株式会社)
幹事長：占部 大介(富山県立大学 工学部生物工学科 教授)
庶務：山田 強(富山大学 学術研究部薬学・和漢系 准教授)

令和7年度会議記録

❖令和7年度総会(書面審議、議案審議回答 Forms 及び回答書を5月より順次送付)

【審議事項】(会則21条に基づき、回答者数の過半数議決をもって、全項目承認とみなす。)

1. 名誉会員への就任について
2. 令和6年度事業報告
3. 令和6年度収支決算報告
4. 令和7年度事業計画
5. 令和7年度収支予算書
6. 令和7年度役員名簿(案)

(以下、採決結果)

- ・個人会員数：129名(令和7年4月23日現在)
- ・議案審議回答書の回答数：74名
- ・承認数(1項目の未回答を除き承認)：1名
(全項目承認)：74名

(以上)

【報告事項】

1. 令和7年度会員について
2. 令和7年度幹事会委員について

❖第63回幹事会(令和7年8月6日、ハイブリッド開催)

【報告事項】第61回研究会(令和7年5月14日開催)の報告について

【審議事項】

1. 第62回研究会(令和7年10月31日開催予定)について
2. 第63回研究会(令和8年春開催予定)について
3. 第64回研究会(令和8年秋開催予定分)のコーディネート担当部局について

4. 令和7年度(令和8年3月末発行)広報誌の特集記事について

❖令和7年度第1回理事会(書面審議、議案審議回答書を8月より順次送付)

【審議事項】

1. 令和7年度フォーラム富山「創薬」役員名簿の更新について
2. 会員の入会について

【報告事項】会員の退会について

❖第64回幹事会(令和8年2月18日、ハイブリッド開催)

【報告事項】第62回研究会(令和7年10月31日開催)の報告について

【審議事項】

1. 第63回研究会(令和8年6月25日開催予定)について
2. 第64回研究会(令和8年10月30日開催予定)及び第65回研究会(令和9年春開催予定分)について
3. 令和8年度総会資料(案)

❖令和8年第2回理事会(書面審議、議案審議回答書を2月より順次送付)

(以下、令和8年2月1日時点での案)

【審議事項】

1. 令和8年度総会資料(案)について
2. 会員の入会について

【報告事項】会員の退会について

● 役員一覧 ●

令和7年8月22日現在

顧問	新田 八朗	富山県知事
会長	齋藤 滋	富山大学長
副会長	有賀 玲子	富山県厚生部長
	大津賀保信	ダイト株式会社代表取締役会長、(一社)富山県薬業連合会会長、 富山県医薬品工業協会理事
	稲田 裕彦	救急薬品工業株式会社代表取締役社長、富山県医薬品工業協会会長、 (一社)富山県薬業連合会副会長
	小笠原 司	富山県立大学長
常任理事	高田 吉弘	(一社)富山県薬業連合会専務理事、富山県医薬品工業協会専務理事
	中川 崇	富山大学学術研究部医学系教授、医学部長
理事	高柳 昌幸	株式会社富士薬品代表取締役社長、(一社)富山県薬業連合会副会長、 富山県医薬品工業協会理事
	中井 環	リードケミカル株式会社代表取締役社長、 (一社)富山県薬業連合会副会長、富山県医薬品工業協会副会長
	金岡 克己	テイカ製薬株式会社代表取締役社長、(一社)富山県薬業連合会副会長、 富山県医薬品工業協会理事
	佐藤 充宏	富士フィルム富山化学株式会社代表取締役社長、 (一社)富山県薬業連合会副会長、富山県医薬品工業協会副会長
	中井 淳	東亜薬品株式会社代表取締役社長、(一社)富山県薬業連合会副会長
	長尾 康次	アステラス製薬株式会社富山技術センター長、富山県医薬品工業協会副会長
	北村 博樹	株式会社陽進堂代表取締役社長、富山県医薬品工業協会副会長
	合田 幸広	富山県薬事総合研究開発センター所長
	小熊 規泰	富山大学学術研究部工学系教授、工学部長
	松谷 裕二	富山大学学術研究部薬学・和漢系教授、薬学部長
東田 千尋	富山大学学術研究部薬学・和漢系教授、和漢医薬学総合研究所長	
竹内 大輔	富山県厚生部参事くすり振興課長	
中井 龍	日東メディック株式会社代表取締役会長、富山県医薬品工業協会副会長	

フォーラム富山「創薬」会員

会員の皆様のご賛同に厚く御礼申し上げます

賛助会員（以下、五十音順）

アステラス製薬株式会社
 池田薬品工業株式会社
 救急薬品工業株式会社
 クラシエ株式会社
 株式会社廣貫堂
 金剛化学株式会社
 金剛薬品株式会社
 サノフィ株式会社
 十全化学株式会社
 第一薬品工業株式会社
 大協薬品工業株式会社
 ダイト株式会社
 株式会社ツムラ富山営業所
 テイカ製薬株式会社
 東亜薬品株式会社
 日東メディック株式会社
 日本カーバイド工業株式会社
 日本曹達株式会社高岡工場
 ノボノルディスクファーマ株式会社
 株式会社パウレック
 富士化学工業株式会社
 富士フィルム富山化学株式会社
 株式会社富士薬品
 株式会社陽進堂
 リードケミカル株式会社
 （以上、五十音順）

個人会員 124名

名誉会員（以下、五十音順 敬称略）

今中 常雄 富山大学 名誉教授
 遠藤 俊郎 富山大学 名誉教授
 倉石 泰 和歌山県立医科大学 学長特命教授
 西頭 徳三 常葉大学 名誉学長
 谿 忠人 大阪大谷大学 名誉教授
 戸邊 一之 富山大学学術研究部医学系 特別研究教授
 許 南浩 元富山医科薬科大学医学部 教授

幹事会委員

令和7年12月1日現在

議長	中川 崇	(富山大学学術研究部医学系教授 医学部長)
	塩田 聡	(テイカ製薬株式会社研究開発本 部創薬研究部部长)
	山 誠二郎	(リードケミカル株式会社執行役員、 研究開発部長)
	小森 洋	(富山県厚生部くすり振興課課長 補佐企画・振興係長)
	渡会三千代	(富山県薬事総合研究開発センター 次長)
	長井 良憲	(富山県立大学工学部教授)
	酒井 秀紀	(富山大学理事・副学長)
	山本 善裕	(富山大学副学長・附属病院長)
	松谷 裕二	(富山大学薬学部長)
	東田 千尋	(富山大学和漢医薬学総合研究所長)
	磯部 正治	(富山大学学術研究部工学系特別 研究教授)
	高崎 一朗	(富山大学学術研究部工学系准教授)
	將積日出夫	(富山大学医学部客員教授)

(順不同、敬称略)



フォーラム富山「創薬」News No.26 令和8年2月

編集・発行 フォーラム富山「創薬」事務局
 (富山大学研究推進部研究振興課内)
 〒930-0194 富山県富山市杉谷2630
 TEL:076-434-7184 FAX:076-434-4656
 E-mail:forum[at]adm.u-toyama.ac.jp
 ※[at]を@に変換してください